

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5



琴東古義錄

九



清源

8

關東古戦録卷之九



目錄

① 常陸國小張城夜邊ひらちのみちくはちのよるよこえ附つ居城之事ゐるじやうのこゝろ

② 下總國柏宿軍之事しもたのくにかしらぐさのぐんじのこゝろ

附つ濱田五郎討死之事はまのたけのぶらううちしにのこゝろ

③ 下總國小金原合戦しもたのくにこがねはらのあひびたい

卷九



附 長尾奇計常陸勢敗軍事

④ 武藏國隅田川水陸軍之軍

附 西田謀畧之軍

關東古戦録卷之九

小張城夜討附落城之軍

去程小其年も竟暮て明年の春小なれ去年の義  
連不幸のとありて戦伐の事を依とゆひぬ其回小  
北條左邊門太夫と成田下総守兩将あり常陸國に働  
有く不多賀谷修理大夫重政只越守旗頭の小田  
勢東將監大將とて之家合て三千人武藏勢五千の人  
數と常陸の境に吾孫子川を隔て取合有らば常  
陸勢切勝と武藏勢敗軍して其年の暮れぬ成田當年  
小及く其勢情を晴さんとせれども上州越後の人數  
と折くの戦小再兵を發するにあつて密に義連小兵  
を起し常陸へ手を伸さるべしと告來義連長尾を召て



成田より常陸へ奉遣なまよふきの使者あり、吾憶ふ小常  
列より小回成始、武勇の諸將多し、味方小勢を以てこれ  
と戦んと甚危う多し。如何あらんと、室ひられが為  
明承て上意を小候へとも、成田よりおれを促す、去  
の敗北を愠て君の手を借て、素懐を達んと、これを  
諾して兵を起す、即ち義我なり、計る小常陸の諸將  
各一家の旗を立て、相一和せむ。小回多賀若等と我  
とも、側の諸將必しもこれを助く、奮うす、多賀若若  
我を追散して、小回勢を切崩さば、君の武威一國を遠  
小回懐成、諸城の勇將必交和を結ぶ、おれ家運用する  
の始むる、多しと、懐て心よく、精舎て、使者を帰し、直に勢  
格を、なり、ころり、る、長尾が下、知れ、所、の、与、力、日、限、を

撫て、ト、総國、小金原、小集、多し、と、觸、出、し、唯、館、中、の、人、数  
を、撻、て、打、立、給、ふ、真、先、一、色、時、範、騎、士、十、五、人、歩、卒、五、十、人  
二、番、小、城、戸、持、廣、騎、士、拾、人、三、番、大、將、義、連、旗、本、を、二、手、小  
分、之、小、楮、五、十、人、鹿、嶋、五、十、人、義、連、ハ、例、の、親、兵、七、騎、惣、人  
數、百、五、十、人、跡、ハ、軍、師、長、尾、為、明、逞、兵、七、十、余、人、旗、本、天、下  
翻、り、叙、載、日、小、映、し、て、行、軍、あ、る、留、五、山、形、八、郎、季、照、不  
謀、士、西、回、伊、豆、を、さ、し、派、と、騎、士、二、十、人、歩、士、百、七、十、餘、人  
館、の、押、と、し、て、残、れ、し、り、是、山、形、病、氣、小、之、快、癒、と、云  
へ、共、未、行、歩、心、小、任、せ、ず、因、茲、なり、既、行、軍、小、金、原、至  
れ、ハ、先、達、之、所、之、の、軍、勢、一、千、餘、人、着、到、候、を、以、て、謝、け  
ま、ハ、義、連、自、身、小、来、廻、し、て、一、く、隊、將、小、達、之、期、約、を、違  
は、ど、早、速、の、奉、着、を、謝、し、ま、ハ、何、も、將、の、慈、恩、を、感、



勢も正小盛なり。長尾先達と島等森將指三郎といふ  
 者小陣を鍛練なす。ゆゑ主要を傳へし。二日以前  
 小張越て廣原の中少く地を撥て陣營を布せられ。本  
 陣始法陣小屋を合し。實小堂の陣なれば義連  
 大小感し給ひ。即時小權三郎を召て褒賞あり。徳軍正防  
 をゆる。眞所を去り。ひて。壺を掛け。用心處陣とれり。  
 斯る所。當地の城主高木治部大輔より。使者を以て此度  
 の軍勢を歴し。成田下総守と旧来の好い。聊を將  
 對し。疎意がと。金も子。軍用の求あり。一臂の助をな  
 べし。と。念ひ。中。紙なれば。義連厚く。これを附。此度の勝  
 負。全北条家へ功を立る。小あり。と。成田の横をぬ。兵  
 を起り。猪放た。小。一。小あり。と。必し。も。他の助。援。成

求る。心なり。只城下を獲し。閉陣をなす。と。宥怒あり。バ  
 くれ。小。上。と。と。助力なり。と。懇懇。小。使者をりて。道  
 給へ。長尾為明密。小。大將。義連。小。向。角。押。ある。と。為。賀。若  
 修理。大夫。只。越。き。守。の。両。將。恐。を。以。て。あ。れ。を。知。る。也。  
 今日。度。小。着。陣。な。せ。バ。小。張。七。里。の。道。なり。長。速。を。弛。た  
 る。人。數。道。路。諸。將。の。城。地。あり。殊。小。當。國。不。業。肉。の。勢。な。れ。バ。  
 必。合。戦。ハ。明。日。ウ。明。後。日。と。察。し。去。年。の。勝。利。ハ。心。驕。り。我。小  
 勢。を。あ。を。ど。ろ。と。油。断。あ。る。所。なり。一。舉。し。て。今。宵。夜。討  
 を。す。し。小。張。の。城。を。棄。る。へ。し。時。已。小。未。の。下。刻。なり。早  
 討。之。人。と。中。々。な。れ。バ。義。連。の。ま。よ。ハ。先。生。の。伺。理。あり。と。之  
 大。軍。兵。今。曉。より。數。里。を。弛。く。正。小。芳。中。へ。し。ま。よ。七。里。を  
 經。ハ。大。小。疲。れ。弱。ま。へ。し。と。あり。けれ。バ。さ。れ。バ。は。と。く。い。れ。お



所くの兵を先達を招きたり。是を以て討ひ必勝利疑なし。  
 兵ハ神速を考ふ御心を決し給へと云義連にいひし給ひ  
 所くの集勢強練小らうく。必下知し付事あるまじ。長尾わ  
 らひて鳥合の兵を以て刃をなせしとあり。いざんぞ強練  
 の兵ありた。何ぞ米よとを泊んやと兵指の機密を流し  
 義連大少悟り給ひ。然らば早く兵を出さべしといささ  
 給へば為明亦申さる。君今宵出馬あらば館の人数一  
 人も残る者ある危うす。不如今夜の物主。某命をか  
 かりて小楯鹿島演回を伴ひ。二百人を以て押寄屋  
 夜明な。君行軍して。小張と出張あるへしと相約し。と  
 人数を呼集し。某今君命を交し。園宿へ使節を打た  
 道宿敵多かれ。必戦ふ及危し。命を惜み。一戦を挑んぬ。

吾は從之。行軍し。と傳へられ。義を結んで。諸勢を行  
 んと。是は園宿に申され。長尾大少悟り。行も止るも同く  
 義のある所なり。とぞ。天小任さんと長尾を以て。人数  
 を二小分と。錢百文を以て。文字の方多く。た裏の方多  
 く。右と定め。原上よ。まこと。なれ。文字の方七八十。及  
 ぐ。亦左の人数を二に分く。右の如し。二度分て。百二十人  
 を泊たり。是も。小楯鹿島演回。二十人。分を分く。小  
 小吾人数七十の内を十人。添く。何れも四十人。合て百二十人  
 なり。長尾。集勢四十。手勢四十。合て八十人を引具し。布  
 施へ掛て。押行たり。爰も小張の城主。只。越守。及。忍の者  
 立歸り。義連。告る。由を告り。大少。笑ひ。北条家の若  
 武。一戦。小切崩し。鋒先へ。名も。一接の。殊も。小



樂小く向ふとハ。大入る出小異たらず。明日政事らハ城  
 を掃ておとく出一捲は追立んと下妻の多賀若へ通達して  
 何心なく居る所小。夜も早夜半過五更小近うるととる  
 小。心もよらうとて大寺の城戸際を長尾攻寄て時を喫とを上  
 小。なる。城中大小強動して。とハ敵より押寄しう。先射掃  
 とゆを揃る。其内小力士。掛や去箱を持せ。門を徹塵小  
 打破く。濱田五郎真先小進で。大太刀を振とと込介ハ  
 ながろ六階へ返せとこの色計もて。皆本丸へ引所を濱田ハ大  
 りと難立とと色出して。おまれば。四十人押殺て。野ノ衆  
 て。旗しう。本丸の周りと死人の山を築たり。を守守大  
 小怒り見れば。僅の小幣ハ押送られしを。き恨をれ。幣を以  
 て追出せと。究竟の射手を揃へ矢つと。早小射掃る。小寄き

これ小射白られく。漂ふ所をき。守時より今と。城門を押  
 固き。馬上を以て駈たり々。濱田ハ人数忽小押立られ。城  
 外へ引取れハ。すらすらと長尾入替り。亦一回小込入れハ。を  
 守腹を立性懲もたさ。奴原ハ城外遙ハ追拂んと。人数  
 を揃へ。大河の流るどく。駈しうハ。暫くハ。支ると。刀を  
 長尾ハ。人数追寄され。城外七八町人た。れを打て。敵軍を  
 を。波も。元小棄てて。人数を駈すと。ぬ。丸ハ。引て。追立れ  
 ハ。長尾今ハ。叶り。と。亦五六町引れ。坂口を後よ。あ。ひ  
 た。と。折布て。掛る敵を。待りけたり。を。守急度見て  
 敵ハ。死地小陥し。追控て。引返せと。繰上んと。とる所。左  
 の森の茂。より。一。手の人。数。欠。出。と。城兵の。後。より。時。を。ど  
 つと。作り。忍。松。大。投。掛。と。鹿。島。悪。次。郎。太。刀。真。向。よ。さ。し。う。と。



して村を立たる城兵へ面も搦ど切と入。八方へ難立る。比太刀  
 先より迫る者或は籠手を打落され綿嚙かけて切下られ。あ  
 りい袋掛車切等を乱して切伏たり。きあまる。弦て。いうさ  
 ま彼ハ凡人ならず。力を合せて打捕と。下を従ハ。只越の形切  
 たる。力士三人被連て。押取困む。鹿島少も恐れ。二人を相  
 手りして戦ふ。刃々たる。二人を左右に切倒し。一人を付入  
 と。上帯掛を。あいと。して。投付れ。軍兵五六騎。打倒され。惣  
 軍。俄に。崩立。足な。と。乱る。其所を。長尾軍。配打。振と。掛れ  
 今を。と。色の下折布。たる。人数。一回。起立。を。あ。して。掛き  
 ハ。城兵。草的。小。追。崩。され。空。き。靡。て。放。軍。し。城。へ。入。んと。す。  
 たり。し。城。中。より。矢。を。發。出。せ。と。酒。の。ど。ろ。小。橋。半。七。郎。大  
 吉。上。げ。我。長。尾。の。計。を。受。く。ば。城。を。乘。取。たり。し。も。き。や。ま。な

こを見ま。と。呼。び。な。れ。ば。き。收。る。無。念。醫。は。隊。切。死。せ。んと  
 駈。向。ふ。を。即。等。大。押。隔。と。下。妻。う。て。殿。定。む。長。尾。十。合。小  
 打。勝。と。人。數。を。ま。と。め。城。中。へ。入。て。人。を。改。め。虎。に。く。を。固。く  
 只。越。が。妻。子。を。發。さ。び。能。い。と。り。て。靜。り。返。て。人。數。を。休。諸  
 人の。切。を。う。賣。り。る。翌。日。大。將。義。連。落。城。の。告。を。聞。き。急。到。是  
 あり。な。れ。ば。長。尾。城。門。を。開。く。迎。奉。る。昨。夜。の。務。員。を。守。給。ひ  
 妙。計。今。に。始。と。云。大。神。速。の。切。を。深。く。賣。答。あ。つ。て。夜。軍  
 を。廢。し。早。速。只。越。の。書。室。を。外。の。老。少。婦。女。一。毫。も。を。う。さ。さ。ど。  
 里。人。小。傘。し。て。是。を。下。妻。へ。送。り。給。く。ハ。人。民。早。其。恩。德。を。感  
 伏。し。ぬ。諸。城。へ。入。り。見。給。ふ。分。内。換。く。し。て。防。我。は。便。な。け  
 れ。ば。長。尾。小。謀。を。同。給。ふ。答。曰。定。む。只。越。多。賀。者。と。候。し。小  
 田。の。加。勢。を。乞。て。大。軍。少。く。攻。來。ん。送。旁。の。計。を。以。て。漸



小引引中、小金原小く大利を為す。諸將を集て人数  
二百人を必く此城を守り、北日菟城に人あらず、望す  
へしと云々。城戸次郎太郎進出と、某全く菟城を  
登ると云。小橋半七郎、是を歩く此城元東軍師の命を  
某攻て棄れたり吾必死んと云。あ人相争と止す。時小橋  
堀盛志郎躍出て、あ英ハ我君の股法なり。平場の務員小益  
あり。某平場の働ハ、及むと云。某命を蒙ると云。為明矣。二  
人ハ必あまざるゆ、死くハ某命を蒙ると云。為明矣。二  
人車を争へハ切必側の人ハありと云。警塚ハ城を去り、  
あ英ハ亦若手配ありと二百人を警塚ハ添て、菟城の心は  
細くと云。教あ日人馬を体く、城を去り、城戸持廣ハ  
百八十人を與へく。死手小残ハ、越軍ハ、小金柏宿の邊まで引

取たり

柏宿軍之事附濱田五郎討死之事

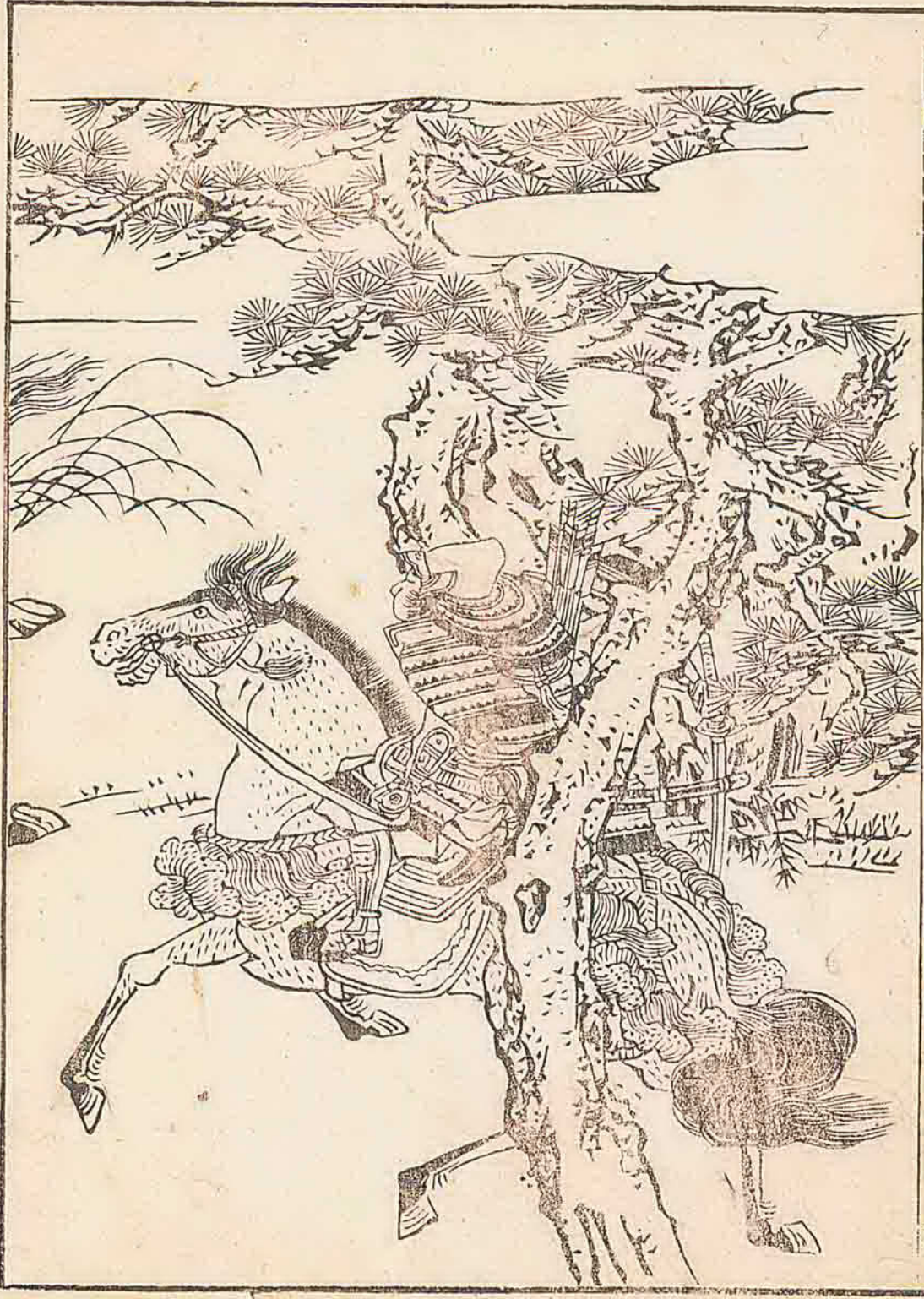
只越々、下妻の城へ落行、多賀谷ハ對面して、敗軍の  
始末を治る。元來、智勇の修理大夫、あれを歩くと、是も公の  
禊、あまど、敵方の謀人、智の外、小出ハ、容易の事にあらず  
と。お馬を以て小田へ走らせ、援兵を乞ふ。小田民治、知  
つくと、吉例ハ、任せ、東村監手、餘人を率して、着せれば、あ將大小  
悦て、修理大夫五百騎、を、守之、百騎餘、都合二千餘人、手分  
を定て、先、小張の城を、包圍で、八方より、攻ける。小橋、援兵、を  
送して、あれを、防ぎ、長尾、つ、下、万騎、を、必く、攻兵、を、候し、  
其、攻、未、稀、なる、鉄炮、を、以て、大、切、の、場、面、を、打、ら、る、故、号、者、人  
數、の、損、む、計、ハ、城、ハ、討、死、一、人、も、あ、ら、ず、然、る、折、り、城、戸



持廣夜小乗して付て出陣屋を發せ火を放ち敵人数を出  
 せば鬨の子を散せとく逃散て亦其の來るは由をとめく  
 こ見多賀若笑曰去は北条流の隠遊の謀なり吾何が後  
 領のとも悪ならんや重く是六打敷し是長小追つぬ微塵  
 小破くま立の底を洗んと待くる角とハ知む城戸例の如  
 押寄時を揚ぐる小はハ時と多賀若下知して士隊將時  
 固王搭選兵二百騎計少く喫と掛れハ棄の如等を礼して  
 逃散を何くともと追詰たり將監も續く人数を揃て追  
 掛たり城戸取手小屯んとせも内小敵間近く追來れハ叶  
 くと吾孫子川を打渡之相の人数こ一手小なる主孫  
 先ハ川を渡り見渡せば相小多く備たり將監を近付て  
 あれ見給へ敵の人数ハ彼よりあれ押詰く打破んをいさ

と人数を分て去驀と打く掛る小指鹿島る人数百餘人こ  
 きを迎く戦ふたり兼て為明これと命して敵川を渡ら  
 ハ且我且退と敵を偽引手段なりしに恥を抱く常陸勢透  
 間なく進んで付る者を踏越え採たりハ味方の人数  
 引揚るこ能ハと相氣となりつと英の人数三百打れ  
 人勇を震く数十人切伏せと猶大勢押掛られハ城戸る人  
 数これを手入替り暫我て務員なりハ時大將義連こ  
 英の務員をあやがめて敵く小金へ引取給ふと小高こ  
 岡ハ馬のり居軍の換を及給ふ所を東將監急度刃入り  
 大將ぞござんたれ手捕ふせんと短兵急と攻詰たり義  
 連大ハ駭ふハ諸卒小余して我ハ大勢ハ隔られ大將  
 一騎と成るとこハ將監負小掛くハ子の大将と成りけ







たり、ふれや猶人と強豪し、義連これを夢給ひ、よしなき組おなじと肉小大勢掛ら、害あらん、爰ハ一先奥あんと返答もなく逃給ふを、さこそか、返せと返掛たり、戻回五郎、さるふ此由、刀をさりも、さつと云く、欠来り、五郎の間を、ま切て掛りしを、将監怒く、太刀振よ、我し、五郎ハ歩立の疲武者、将監ハ馬上の太刀小伸有て、五郎襟先切、逆れ漂ふ所を首打落し、向を急度、足てあれ、未所小ハ足さりけり、東精神加、馬小鞭打、一巻、系付たり、義連ハ坂を下り、小乗をり給ふ、所へ、将監ハ馬既、後小せまり、太刀振よ、切んとせし、一條の白光、義連の甲の肉あり、起て、将監ハ眼忽ら、ら、三、於、豫、よる肉小、義連ハ一町計、逃延たり、将監大小怪、彼ハ天授なり、助る小ハ、あ、とと、馬を立、と、足、送、る、所

小味岡主猪乗付て、彼ハ敵將よあらむと、何となく、猿給ふと云、将監登て、馬被て息あ、一、巻、小ハ、肉、之、体りと云、られ、然、其、某、討、留んと、跡を慕く、追掛る、此、時、長尾ハ、一色を、使、く、小金の陣、營へ、入り、々、る、り、そ、を、顧、て、南、之、室、不、時、の、猪、居、が、あれ、御、色、往、て、救、れ、よ、と、時、範、を、追、立、り、自、ら、大、勢、を、引、具、して、押、続、と、お、向、ふ、味、岡、主、猪、ハ、主、従、五、六、騎、少、く、義、連、を、追、掛、り、が、人、家、の、内、へ、入、給、ふ、を、逆、小、見、て、つ、いて、不、可、忍、て、あれ、ハ、騎、の、武、者、捨、扱、て、眼、を、怒、く、鬼、怒、左、右、ノ、今、ハ、大、言、よ、て、已、何、者、な、れ、ハ、角、狼、藉、を、と、る、や、と、呼、び、し、れ、が、主、猪、甚、強、て、取、返、し、逃、出、る、を、電、光、の、と、く、追、追、て、一、色、討、死、を、知、る、や、と、甲、の、天、窓、より、お、と、と、く、々、々、何、六、ハ、と、た、ま、る、と、云、魚、相、立、と、死、た、り、に、り、残、る、奴、原、追、拂、ひ、義、連、ハ、忍、く、と、其、難、を



免るを覚して。脱所へ為明人数を率て来り。大将の  
 車を見之。大よ心を安し。拍の務負いんとき。所よ小楯  
 鹿嶋を始。其外の北に誘。追よ。弘来り。大将は隔られ。君を  
 危難に陥し。と我くが罪なり。と恐入く。ヤ々れ。我連これ  
 を慰め。あまひ。深く。淡回が。討死を。惜しむ。所よ。歩卒  
 殿よ。弘来り。城戸持。度。大勢よ。五圍れ。志。危急の。五。扱。はり  
 と。告り。義連。る。を。押。立。く。城戸。を。討。せ。ハ。何。を。う。討。せん。と。  
 衆。出。さん。と。給。ふ。を。長。尾。深。く。押。止。め。一。も。う。命。と。て。是  
 を。救。り。ぬ。添。より。人数。を。帥。と。押。送。たり。は。時。持。度。ハ。主  
 君。の。行。米。受。来。なく。我。よ。心。づく。一。方。を。行。破。て。遁。れ。ん。と。と  
 き。尤。鉄。網。の。と。く。圍。れ。ハ。精神。正。よ。疲。く。う。ハ。一。声。大。叫。び。て  
 小。回。の。物。次。梅。津。伴。九。郎。と。云。る。大。別。の。兵。一。文字。突。て。か

馬より下。突。落。して。此。勢。は。樹。板。たり。一。色。見。る。より。大。郎  
 老。弟。門。なる。で。早。く。立。去。れ。と。呼。り。く。ま。ハ。此。郎。太。郎。急。度  
 見。く。君。ハ。何。く。よ。渡。ら。せ。あ。う。と。向。け。れ。ハ。氣。を。せ。と。と。早。ゆ  
 と。追。え。り。四。巻。立。たる。其。中。へ。一。色。控。後。なく。近。入。鉄。板。の  
 如。き。控。抱。て。ハ。場。より。難。立。れ。ハ。思。る。者。あ。か。恐。く。よ。も。人。る  
 少。て。ハ。あ。う。と。と。音。を。ま。い。く。敵。是。よ。なり。な。れ。ハ。一。色。い。き。ん。で  
 急。い。聲。出。し。て。働。く。東。將。監。の。旗。手。を。見。く。二。世。に。に  
 近。く。の。と。將。監。ハ。旗。を。令。ん。と。と。流。石。の。お。監。如。易。して。大  
 勢。の。中。へ。逃。たり。と。時。長。尾。人。数。を。下。知。して。番。衆。の。眼。よ  
 躍。る。勢。よ。て。隊。伍。を。乱。さ。ど。押。掛。れ。ハ。敵。軍。大。よ。強。勁。して。我  
 孫。子。門。へ。引。寄。る。を。小。楯。鹿。嶋。志。先。よ。進。之。逃。る。を。追。て。あ。英  
 秘。術。を。用。い。た。れ。ハ。一。返。も。か。へ。さ。と。流。川。よ。追。落。され。討。た



者数を志らざり。東将監八唯一騎小たり。幸しく命を遁れ、遠く  
 小強へ立加ふる義連兵を流し、懸檢ある。淡田五良を始と  
 て、騎士廿八騎討死し、歩卒百餘人死亡せり。大將城戸を石  
 とく見たり。乃ち立矢十一筋、兼毛の如く折かけ、常陸勢を  
 上北一騎、雜兵四六十も突伏され、木固を出るのあざむき。一  
 色の物もあらざらん。討死決定せり。唯忠の清、約束すつ  
 なく候とて、尊親を救ひ、生前の奉望まよはさざりと悦け  
 ば、一色大將の馬を進み、城戸を救ふとなす。終に、忠儀を信  
 れ、持廣涙を流して退さぬ。夫より、義連討死の者数を自  
 ら法事ありて、念以り吊ひ給ひたり。法軍、皆涙を流して  
 悲徳小伏しぬ。い戦は常陸勢、梅津伴九良、味岡五郎を始  
 として、騎士百十六騎、將兵死亡数を志らざれば、東将監早と

小田の使を馳り重て加勢を乞ふけり

小金原合戦 附長尾為景計 常陸勢外軍之事

斯く多賀谷修理大夫、只越を以て、東将監打寄し、軍源定な  
 し、なるが。昨日の戦味方既より利運より及し、所後の戦は、徳を  
 且伴九郎、五郎を始として、大將の人数を擡ぎせり。思は、敵  
 の惣勢千餘人不出せりと見切ぬ。小田の加勢を増し、下  
 妻の人数をりさこ。大軍少く追ふと、我々必、傍理疑なくし  
 小迫合、目を送らば、敵は、早敷の英士あり。徒に人数を擡小及  
 び、只越申するに、東將某もたより思つれ。昨日敵將義  
 連とやらんを遁れ、打止んとせし所、小奇理ありとて、討死  
 し、味岡を討れぬ。殊に、家士の内、英物甚多し。今も城戸  
 が、鎧の妙一色、強力、威武、小指鹿鳴、剣法、皆万人の敵たり



と奮を具小物語り、多賀岩も心大小恐れける  
 ぐは上運を天小任せく。今一度務員を掛く、上思慮あ  
 るべし。亦目前の筑城甚軍は、叶ひ居城の手段小及むと、  
 評議の同小回より信回和泉者筑波八郎、あ將も密な、上方  
 等を始として二千五百人、密着有べき由告り、三將大小  
 表てあきを侍更之相決あり、大務員は浮定一決して小  
 張の城、壹波者押して是をちり、惣人数七千餘人、利根  
 川の末をあ所は清り、吾孫子川より信回筑波打渡、戸取  
 より、多賀岩東相渡り、相宿めく、一まとり、物見を掛れ  
 六敵、小金原小陣營を據り、と告り、八廣場の戦が、む  
 所なりと、爰まで備を多死と、一番岡本五百人、二番上方五  
 百人、三番信回千人、四番筑波千人、五番多賀岩七百人、將監

ハ浮勢よりして弱く、ん方を馳く、ゆくと、一勢は廣原へ押  
 出して北の原に備を嚴重に立役く、長尾為明ハ恐を放く  
 敵の模倣を悉く察し、は度の合戦が大事なれ、平場の務  
 員小小を以て大小敵まると、兵は禁むる所なり、然とを  
 け敵を破ら、んハ東國ハ威を示すとあり、某一の謀  
 ありと密に義連よを遣はれ、大は悦む、諸軍を多分して  
 南原より押出して、備をとる、先は小指半七郎、惣人数  
 百五十人、次ハ鹿嶋要次郎、城戸次郎、各百人、左左右  
 小町を隔く、續たり、其次ハ大将義連二百人、左小備ハ右ハ  
 長尾監物百五十人、都合七百餘人、一色太郎、左門ハ二百人  
 を率て、遙に林申よ立て、急を救ふの備とむ、敵の人数よ  
 らうづれハ九牛が一毛なり、既よあ陣を寄て、凱を喫とる



揚ふりり、廣原忽地山崩、橋本倭も震動す。矢を射遠くす。及く  
 るるが、敵の先鋒の隊將、墨本大音上之、敵の備まらざりしと打  
 破す。安らぐべし。と下知を加へ、武者一統、穂先を搦て、面も  
 あらざり、突く掛る小指、下知して惣兵を折布せ。敵の掛る  
 を余所、少くも、同十七八回計、近寄て射手を搦く。一捲  
 射掛る。同近き場なれば、仇矢なり。墨本が武者十騎計、忽  
 ち死す。惣人数、四度路より、是並崩る。其所を小指  
 いらんぞ、扱打振掛れ。と下知せらる。大地は平と。味方  
 の武者、一同は起立て、其切は突ひたり。何うハ、必くあまらる。危  
 き、忽ち退きられ、惣軍小及しを、追詰て、らん。小言を、取  
 て、元の備へ引返。芝居を、おとしたり。敵の山方入、智り、攻寄  
 ると見る。ゆりも、城戸鹿嶋、左右より、押出せば、小指、人数ハ

引締め、一町計引退く。兼ての作法と、及くに、りり。小方が、五  
 百人、二手に分れて、真中、一團んと、とれ。城戸鹿嶋、忽ち、一手  
 と、なり。魚鱗、一備へ、去中へ、突入。右の方へ、打扱を、返く。左  
 へ、進出。須臾、小二手に分れて、あ英、先は進く。突立、切崩す。山  
 方が、人数度を、失て、引分れたる、勢なれば、二所、小集り、泊る。敵  
 小、急走す。信田、由、見る。ゆりも、敵の士卒ハ、飛練の、兵な  
 る。七、手押、掛る。と。大軍を、進之。潮の、湧か、とく。小押、加  
 れ、ハ、飛波、信田、の、係を、結め、多賀、若も、回く。續たり。義連、毛尾  
 も、惣掛、進之。十倍の、人数、小、ち、の、も、恐れ、掛、合、せ、火  
 出る。程、戦、所、東將、監、横、小、攻、掛、ま、ハ、義連、の、人数、忽ち、  
 攻、軍、一、た、た、へ、の、と、引、れ、たり。信田、勢、小、集、て、追、討、せ  
 ん。と、下、知、せ、る、を、多、賀、若、急、押、止、めて、敵、の、人数、崩、る。



に見られた。一勢と隊伍を乱さざといふ事にも、勢の失の事  
 配り、勢を替く候子を見るべしと。人数を扱く見せしめられ、義  
 連の人数を先より引纏て陣營より急るべし、長尾小指鹿  
 嶋の備も押縛と引去行。よら敵軍を押縛と。敵の人数  
 雲霞のどく押来るを城戸次郎右衛門、人数を折布槍押  
 て支たり。敵將周本急度、後殿の武者振天晴花やうを  
 甲と、槍取直突掛れ。持廣も馬より乗掛きて、暫く我し  
 墨本臂を突れと流る。血泉のめし。郎等二騎馳きて、三  
 方より槍を揚んとせし。持廣怒て推参する。奴系と馬を地  
 と乗遠しと見せし。二人を馬より突落し、一騎の逃行を  
 後より、狗板とさしつらぬき、立降る。岡本既より引  
 たり。猛物に攻め寄せ、城戸も今ハ叶しと。辰巳を指て、敵

走し。多賀谷下知して敵を真深く見れハ、今ハ此より  
 人数の足並皆散乱し、急進し陣營を棄れと。呼るに、  
 勇いといふ。信田筑波惣軍を下知し、て押掛れ。長尾が人  
 数多く、互に暫踏止ると見せし。遂に敵は押寄せられ、  
 向て逃行たり。義連馬上より太旗上げ、さしなり。若大返せと  
 と下知し、て小指鹿嶋と一言となり、丸小指のて、  
 返し、勇を振て我し。大軍小指力癒て、おれも急して陣中へ  
 逃入を、信田下知して附入し、と。系られと。將監、先より進  
 と。透間なく、返掛れ。義連陣中へ入ると、叶し。右健左健  
 小指ある、奇手大小勇を、陣中へ押入れ。陣を守る  
 雑兵、大小強き、逃せし。將將、急進して陣中を見分り、  
 小指、急進し、自軍、靖六花の陣に似し。多賀



若重政大小感へ、俄小勢代の軍勢、殆多寡の分いんとも  
正へらるも、日も既暮ぬれ、一夜ハ、雲の如く、翌早天は、  
軍を追切んと、俄士小屋と小打入大船を焼立、用心堅固  
小備たり、半夜近き折くら、陣中、俄は、強立、出火ありと  
言白、頼り、あれ、五六箇所、火燃出たり、諸將下知して、是  
を消さむと、中風烈しくして、本陣は、火籠ると、急しく  
急ぐ、巻尾、硫黄、燄硝を、小舟に、変て、大竹、小突、込、本陣の所、  
小多く、指重なる、故、火籠ると、係、又、や、と、きて、百千の、雷の、忽ち、  
落掛る、と、く、山、諸大、お、大、因、章、一、軍、勢、煙、我、をとる、者  
夥しく、即時、死する、者、限、り、諸將、漸く、馬、よ、来て、陣外  
へ、馳、出、せ、ハ、士卒、も、稍、集、り、多、ハ、燒、燭、れ、ハ、勢、折、る、物、の、崩、  
立、へ、た、刃、と、ざ、り、け、る、然、所、へ、一、手、の、人、數、過、風、の、と、く、押、寄、真

先の隊將、夜叉の、と、く、會、新、も、た、く、結、く、掛、る、是、一、色、時、限、り、  
敵、勢、大、は、仰、天、し、て、掛、合、ん、こ、ま、る、内、は、一、色、花、を、て、ハ、方、へ  
切、く、掛、る、と、見、へ、ら、る、り、忽、馬、下、小、切、と、落、し、主、勢、に、強、め、れ、ハ、  
一、変、も、さ、く、急、と、東、を、理、て、落、と、行、十、町、計、行、奴、は、小、指、鹿、崎、  
ウ、二、手、道、を、遮、り、切、之、れ、ハ、甚、く、に、竹、の、と、漸、と、進、行、し、大、  
將、義、連、一、軍、を、帥、て、馳、出、る、ハ、常、陸、の、諸、將、尋、常、の、陣、形、を、  
よ、と、急、く、と、呼、ら、れ、ハ、免、死、と、乱、麁、て、る、事、付、き、て、進、行、を、小、  
指、本、七、郎、信、回、を、追、詰、と、馬、よ、小、と、急、と、引、進、ら、り、た、交、  
に、働、さ、し、搦、捕、と、引、返、さ、し、固、本、乃、今、より、信、回、を、生、捕、ら、せ、  
何、そ、生、く、ゆ、ら、ん、と、踏、止、り、働、く、を、鹿、崎、忠、次、郎、を、め、い、く、  
掛、り、只、一、刀、は、切、敷、く、下、志、を、お、て、近、立、れ、ハ、打、ち、者、數、を、急、  
多、賀、谷、親、波、東、ハ、稍、く、に、為、延、と、相、宿、と、近、く、な、り、人、と、あ



つきたる所よ。時の色を揚ぐ。樹の樹間より一手の人数押出  
 して長尾監物為明先よ馬を立つる常陸の徳将今日  
 の計畧圖を遠ざる勝利。嗚き恨なる。某ハ是利義連が  
 軍師長尾監物と申者なり。快く一戦して生死を定め給ふ  
 為ると。大音小呼り。徳神の付たる。備將返答も。切  
 極く去んと。城戸持廣。槍抱て。花掛く。修理。大まが。其申を  
 突所を物よ。別たる。多賀。急よ。身を。元け。八段を。うけ。と。突  
 拂。られ。既。小馬。より。落ん。と。止る。所を。近。士。これ。を。馳。け。馬  
 引。返。して。逃。行。ふ。東。村。監。力。を。着。て。城。戸。と。皆。戦。く。う。竟。は。打  
 負。引。られ。バ。瓶。波。も。敗。走。く。士。卒。大。半。付。ま。て。這。く。不。逃。ぬ  
 たり。も。尾。軍。を。曳。付。ひ。漸。く。小。原。へ。出。揚。貝。を。吹。て。諸。軍。を  
 集。め。れ。ハ。須。臾。小。備。を。立。たり。げ。と。先。の。陣。所。より。一。里。南。よ

當。く。早。陣。營。を。あ。つ。ら。ひ。たり。是。長。尾。下。部。より。と。槍。三  
 郎。が。當。り。なり。大。將。始。備。軍。大。小。皆。嘆。陣。中。へ。今。點。檢  
 する。小。倉。の。戦。は。味。方。の。人。数。討。死。百。餘。人。夜。中。小。討。死。一。人。も。な  
 寄。手。の。方。は。信。田。生。捕。と。なり。岡。本。山。方。を。始。り。して。大  
 將。分。十。騎。平。騁。百。廿。一。騎。歩。卒。の。死。亡。十。餘。と。及。り。と。云。今  
 度。の。合。戦。よ。う。月。と。義。連。の。武。威。近。國。は。響。き。常。陸。の。人。民  
 悉。く。慈。惠。を。慕。て。数。里。の。間。の。百。姓。首。を。献。して。其。民。た。ん  
 と。を。願。ふ。者。引。も。切。と。義。連。自。ら。立。出。て。お。れ。を。接。し。慈。懐  
 を。垂。り。つ。る。月。で。皆。涙。を。流。して。立。謝。る。茲。より。月。で。思。し  
 陣。中。よ。十。餘。日。を。送。り。お。ひ。たり。斯。る。所。は。擧。げ。方。より。飛  
 札。を。以。て。小。田。氏。治。當。家。の。武。德。を。感。し。給。ひ。一。和。を。乞。て。小  
 張。より。南。西。に。せ。り。く。小。田。の。領。地。あり。お。れ。を。義。連。よ。贈







長く好を結んとなり。大將長尾は向給ふ。為明申るるハ  
 人の和徳を破ハ暴おの所業なり。彼家より矢よ名高し恨  
 を忘れず和を乞ふ事せんハ有へらむ。領領の事彼志を  
 現も有り。受く信田を指返さハ以後接の一助なり。人と  
 ついに義連おれは後ハ鹿嶋悪次郎を使節らて。信田を  
 件とあれを送らしむ。義連信田を引く念比小管。小  
 田の報答字字なり。信田大小其器よ感し。君たれハ臣  
 臣たり。かくの如名將と一和をなむ。且君の大幸はと  
 と恩を附して鹿嶋とたふ立せり。は度使節終らハ熊右  
 郎と交代して。鹿嶋ハ小張ハ在城して。新附の百姓を極  
 盲し。常陸の趣ハ皆塚ハ演説がとむ。さしこの命令な  
 り。かりとらる。極小近邑の城屋より。諸將使を馳て。通和あ

らんを借ふ者少く。義連皆懇懇小應答して。一先新  
 館へ立寄ると。城地を撰て根城となり。八方へ手出あらんと  
 凱陣あり。されハ。河田長泰牛窪を使者らて。此度の勝  
 軍を賀し。前敵の懐りをな。たりと念比は申。越け  
 れハ。義連亦牛窪をい。さりとて。帰らしめ。遂に帰館あり  
 々。れハ。山形八郎。河田伊豆。近小歩。苗五中。の幸難を併  
 へ。上下大に歡喜せり。義連長尾小命して。諸軍高名。の次  
 弟を改め。記させ給。たり。は。歳。天文。廿一年。壬子。なり。

武州隅田川水陸軍之事

是利左京亮義連常陸勢。切猪て。新館。と。海陣あり。されハ  
 眞方始。諸軍。勇。之。候。て。威。敷。里。輝。々。り。長尾を始。その  
 功。を。あ。ら。へ。く。名。賞。賜。を。行。ひ。上。下。偏。頗。あ。く。行。色。々。れ。ハ。



踊躍して益力を奮ふ勢あり。数日の後、義連室にけるハ、  
 先年備磨の折うら。浅州の親善、信物を俱へ、私書を持し  
 ふ。後武運目よ、書を掛る大物をゆると。法英の力も、  
 と云夫、大悲の功也。其、冥恩報とすんハ、有へくす。密に奉  
 信、なまを、とあり、なれハ、為明、兵家の一秘、神  
 の擁護、疎畧よ、まを、と、舟も、下り、給ひ、な、必、や、人  
 知、とな、ら、ん、と、申、な、れ、の、事、振、舞、太、即、曰、目、言、里、の、城、主、富  
 永、四、郎、左、衛、門、ハ、武、勇、の、将、も、く、同、く、我、君、の、屯、を、固、ま、し、て  
 これを付亡まの心あり。今成田と和平なるを、  
 さとと云夫、万、一、君、は、度、の、微、行、を、悟、ら、ハ、必、不、討、の、変、あ、る、  
 と云。も、尾、笑、く、我、も、角、く、思、ふ、な、れ、た、人、を、疑、て、  
 を、  
 新、ま、ん、ハ、元、將、の、拘、る、所、な、り、た、と、富、永、不、慮、よ、人、數、を

差出た。我君の法、福、英、勇、士、の、津、先、小、何、を、及、向、上、事  
 叶、ん、や、君、御、心、を、決、し、て、急、指、あ、る、ゆ、一、色、小、楯、を、始、め、  
 兵、を、百、具、一、給、當、一、西、田、御、侍、あり、た、一、討、の、變、あ、り、た  
 危、と、あ、る、へ、く、と、某、ハ、城、戸、山、形、と、館、を、守、り、御、面、主、在  
 登、と、あ、り、れ、ハ、義、連、大、に、怪、給、ひ、二、英、西、田、を、始、り、し、て、  
 勇、士、外、の、士、卒、五、十、人、計、思、で、出、立、あ、り、船、場、よ、ま、て、  
 三、艘、を、仕、立、主、没、お、れ、よ、お、来、て、舟、行、の、君、ハ、方、を、  
 酒、者、を、搦、く、君、臣、與、小、乘、一、舟、角、田、川、を、下、り、  
 船、あ、り、大、出、圍、小、道、で、舟、藏、を、凝、り、別、當、の、家、よ、入、り、  
 あ、れ、バ、店、主、お、れ、を、  
 佛、書、の、法、備、を、  
 一、ぬ、さ、れ、バ、義、連、の、微、行、あ、る、者、有、く、お、れ、を、  
 目、言、里、の、城、主



小注進下りしれバ、西郎左衛門おれを圍て近來令の海  
 法中る権化太師城下近く来るころ幸なれ狼藉し事よ  
 せと一當あてし、ま挙動を試む身しと百五十人を擧て兵船  
 を浮て海路水戦を挑む身しと定め、若向へ浮て、控る海と  
 由去らバ、綾瀨の樹林の内よ、兵を伏て、不意よ起く打捕べ  
 しと、別小百人を命し、恐を起して、陸より互強らハ  
 逞兵を擧て追討なさんとし、配令く備て、水陸の人数よ、二  
 人の番隊、二人の物取下知を傳く、密よ、三子小別まこ、打立  
 たり、急と、西回ハ、浅るへ着船なると、ま、倭親兵のり、長  
 陣長藏、宇多儀右衛門、あ人の、恐の、名人を、馳と、城中の、動  
 静を、窺せ、るる、ま、立帰と、水陸、手分を、行して、海路を、遮る、ま  
 候を、國、通、許、なれ、ハ、義連、大よ、孩、給、ハ、兵器を、携、來、せ、し、て

多勢よ、死、巻、れ、ハ、甚、危、く、る、身、し、と、宣、ハ、れ、バ、西、回、亦、も、殆、ど  
 必しも、決心を、煩く、給、る、身、し、ま、謀、を、極、て、水、陸、の、人、数  
 を、追、拂、ハ、當、永、小、物、見、ま、と、一、と、俄、よ、海、路、を、取、急、し、義、連、の  
 乗、船、よ、小、指、半、七、郎、浪、合、久、八、安、達、助、八、宇、津、碓、之、助、千、葉、馬  
 之、助、を、始、と、し、士、卒、九、餘、人、を、乗、せ、計、畧、を、密、小、吞、込、せ  
 佐、永、義、連、を、始、一、色、西、回、等、塚、以、下、の、統、兵、打、乘、て、さ、り、げ  
 なく、漕、出、せ、し、ま、折、節、指、瀬、少、く、船、平、く、ま、能、走、り、な、れ、ハ、大  
 將、隅、田、川、を、指、く、古、人、都、島、の、詠、歌、を、吟、し、治、乱、の、人、情、を  
 閑、淡、し、て、快、く、通、船、あ、り、ら、る、身、し、大、江、一、曲、し、て、之、流、よ、合、る、所  
 小、く、忽、芦、芽、の、向、より、数、艘、の、兵、船、を、漕、出、し、て、時、の、色、を  
 あ、け、な、れ、バ、小、指、半、七、郎、浪、合、久、八、と、ま、ま、船、先、小、渡、と、な、れ、ハ  
 足、利、左、京、亮、觀、幸、よ、滑、り、船、な、り、如、何、な、る、恨、有、て、海、路、を



戦を催しけるなり。名乗て勝負なきと云ふと高らう  
 小呼されば中央の船より。番頭村川某。大音とて我々の  
 比邊の野武士なり。足利殿の御内よ。武勇の英士多きよ  
 兼り傳へし働を見まほしく。角推各よ及くこと云も  
 終らぬ。一回小艇を揺て射掛る矢雨のど。味方の船  
 よりも少く矢を放すと云。減よ百分の一。て敵對  
 べし。ち見へざりしが小楢半七郎。女も屈せし。下知をさへ  
 て船を進んとす。たりしが流矢も申りらん。お中へ  
 へ。逆さまに落入れれば浪合も回く水底よ射落され何も  
 大に強く所小。宇津磯之助。千葉馬之助。船端小躍上り。ち  
 こ矢つぐひ。大音とて。穩便小と云。ハ狼藉至極なり。強く搦  
 盾を望む。ちハ。手並を見まほしく。尋常よ掛るへし。こきりこ

と引候。一同小切と放せば。千葉。雁股。帆柱をさへし。と射切  
 と。枕ハ水上よ浮。一船既よ倒せんと。宇津。つ。矢先ハ船端  
 の兵士二人を。一矢小水中よ射落し。られ。敵船。膝を冷し。船  
 並。れ。其所へ中央の舟の船先へ。小楢浪合。水底を潜て。現  
 れ。出。船よ。手を掛。義連家の舟。戦ハ。い。角。と。色。を。合  
 と。傾。れ。ハ。三。拾。騎。乗。たる。船。忽。ち。驚。動。して。残。す。水。中。に。落。入  
 たり。浪。合。と。さ。さ。と。船。を。引。起。せ。ハ。小。楢。ハ。水。中。に。追。追。て。番  
 頭。村。川。を。引。摺。ん。と。浪。合。諸。君。は。空。船。へ。飛。乗。我。君。は。敵。對。者  
 此。れ。を。見。と。手。本。小。せ。と。村。川。を。下。け。切。よ。して。水。中。へ  
 打。出。し。ハ。宇。津。は。手。葉。安。達。ッ。船。より。一。回。は。時。を。突。と。上。大  
 更。々。る。比。有。さ。ま。を。見。ん。より。も。敵。船。の。人。數。表。ハ。忍。れ。只。達  
 矢。よ。射。る。より。外。を。な。り。し。時。田。下。知。を。加。と。義。連。の。船







水上忠藏、泉田六郎、徳たり殿ハ石黒弾右衛門より何  
も槍太刀を持て、立本をまはし、槍切く、二を打振る。居  
此二人須彌の四天の荒たる野より、静くと進之行。去程、  
富永陸の伏兵ハ、深林の中に埋伏して、遠見を掛し、今や  
今やと待居たり。掛る所、一色猪股須臾、伏兵の後ろ、  
甲冑絶大老刃、抜持く、雷の落掛ると、大音上て、是利  
義連、小双、向、悪人原、神明の仰より、一と小切敷と、一色  
呼で、眼を怒し、切く掛き、猪股、続けて、進たり。伏兵、大老  
らず、猪股、慌て、おきを見れば、天魔、役神のとき、大男、眼  
の光、高火のめく、めく、片端より、切され、何ぞ防ぶ、我あ  
心あらん、百人の軍兵、魂飛て、手足、働は、と、内と、進て、進出  
たり、あへ、は、り、と、双方より、獲と、何なく、堤の上と、進

上たり、義連の人数、己を通り、掛り、何うハ、猪股、せん、志、  
浪門倉、根本、一同、大木を、据立て、敵、伏く、進、行、猪、股、ハ、大  
木も、投、捨て、大、木を、穿て、當るを、索、取、て、水中、投、回、て、  
縦、横、働、け、バ、一、敵、對、峙、なく、道、を、求、て、逃、行、たり、然、る  
所、掘、り、伏、したる、兵、十、人、計、不、意、起、て、義、連、を、見、掛  
て、志、莫、く、切、く、出、るを、内、田、足、舟、次、泉、崎、中、宿、富、沢、言  
田の、親、兵、さ、つ、たり、と、立、向、ひ、打、立、く、勢、時、は、残、り、切、伏、た  
り、大、木、大、は、悦、喜、あり、て、諸、士、の、武、勇、殆、く、お、ら、む、と、云、た、  
分、て、舟、宿、富、沢、の、幼、子、の、働、た、め、一、サ、く、う、そ、田、れ、と、一  
同、の、黄、巻、下、し、  
一、軍、並、て、敵、艦、の、船、を、隠、し、横、合、を、討、て、さ、手、殿、なり、し、  
伏、兵、敵、なく、殺、せ、し、う、ハ、  
一、軍、並、て、敵、艦、の、船、を、隠、し、横、合、を、討、て、さ、手、殿、なり、し、  
伏、兵、敵、なく、殺、せ、し、う、ハ、



追跡は弛れぬれハ弾丸傳つ急度見て、大は勇に我今自跡  
 小に己命かきを恨み不能く来まこと小躍りして、五  
 向へ石敷水原等を始りして八人の勇士一繞り枯木を  
 振上獲た刃の勇別なく、天窓より打挫けハ暫くはあつる  
 と見えたるがも勇猛の氣を吞れぬと互に逆行をいつ  
 くさりと追樹んとする所を西回下知して、色猪を  
 獲らばど君を借して早くは地を立去べしと一連の  
 引よぐ列を正して立出んとせし如へ一色猪殺も敵を  
 追掃りかりけりハ是より時範先を打て境を遙に  
 急行し千住しして小楯始勇士たるんば、手楯を現し  
 敵の兵具を悉く乱捕り、農家の馬を借十数匹荷とせし  
 て引立たり、義連大は賞受あつて、おきより馬は打系り

給ひ、二英諸勇士前後を困んと正くと進行し、村里の老  
 少男女神佛の化身なりと云、大将を殺せしといふやど  
 小走進み跪ておきを望み君といひ臣と云、誠は天下無双あり  
 おれり東國の主とハなり給んとい、一同は伏せしけ  
 れハ義連馬より、能く懸言ありて急行給り、忽向ふに  
 一隊の軍勢押来れハ諸士大は獲れ、各二せしは切抜し  
 果樹出るを、お回制していづ、敵の伏兵かくのごとく、  
 押来るべき所謂なりと足をつま立替く望て横まを打  
 長尾軍師は変を悟り、御座の人数を差向たり、俄に  
 吳の智量かると感賞されハ諸士未あやぶとて、眼を定て  
 しく見れハ、其先の隠將、即山形ハ即季照なり、大将始  
 諸人大は安心して、近是より従り、季照馬より獲り、惣人



数折布とを巻小列され、大将立寄と汝如何して来り  
 たるやとあれ、山形水軍師を以て変多とを察し  
 踏中の戦ハ西回あれ、該となり、由踏百一富永多勢を以  
 と追付せ、勇士怪我あらんも計り難しと、其を命じて  
 御進よ差越たりと、言上せられ、義連も尾の智謀を感し  
 且西回が智見を賞し、給ひ、水陸敵の伏兵を受たれ、和  
 回が謀法士の武勇まで恙なく由来れりとも、其次第を語  
 りしより、山形に勝利を著して、二英始西回以下を賞して  
 おきより、前後の備をなして、館へう急ぐれり。是時富  
 永、人数水陸二百五拾人の数、六十八人、打たされ、遠く立  
 廻り、搦手の旗、法士の勇猛を告ぐ舌を巻られ、雄器  
 大徳の富永、大に憤り、以上ハ玉繩の纏成と傳じて、平湯の

勝負を掛て、小迫合に到たる、盜賊亦よ目よ物見せんと、昼  
 夜其用意をぞ、たよりたりけり



